

森人の舎 moribito no ya

学籍番号 1070504
氏名 小林 美賀

* 背景

現在、森林を取り巻く環境は変化しています。戦争中の乱伐によって日本の山は荒廃し、戦後復興にも木材需要が高まり、成長が早く利用価値の高い針葉樹のスギ・ヒノキの植林が推進されました。そのため自然林は減少し、日本の森林における人工林の割合は、面積にして約43%を占めています。安い外国産材が輸入されるようになって、国産材の利用はわずか2割にとどまっています。森林経営の悪化や林業従事者の高齢化による人手不足により、放置森林が増加しています。十分な間伐をされずに育った木は適齢期を迎えても直径が小さく、材としての価値がありません。また、過密に植えられた人工林に日光が入らなくなり、下草が生えず、雨で土砂が流れだし、岩肌むき出しの『緑の砂漠』になります。土砂崩れや洪水などの災害も発生しやすくなります。

この放置森林対策の一環として、森林ボランティアによる山の手入れが行われています。間伐をすることによって森林の育成環境が改善されます。今後も、適切な間伐をしたり植樹などを行っていくボランティアの存在が必要だと思えます。山の手入れは継続的に行っていくなくてはなりません。

* 敷地概要

計画地 高知県長岡郡大豊町久寿軒

久寿軒小学校は、国道32号線からJR土佐北川駅横を東に進み、狭い山道を駆け上がった山中にあります。旧天秤村立久寿軒小中学校として設立され、1952(昭和27)年に久寿軒中学校になりました。その後、老朽化が進んでいた小学校校舎の新築と引き替えに1962(昭和37)年に大杉中学校に統合されました。小学校の児童数は一番多いときで1952(昭和30)年の118人でしたが、それ以降は児童数が減少し、2002(平成14)年には休校となりました。

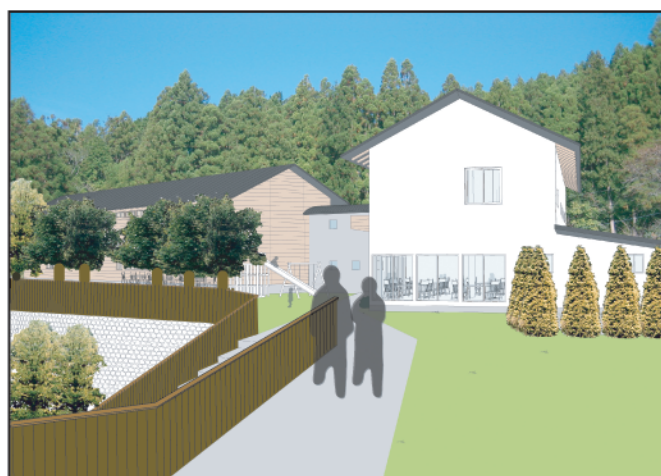


* コンセプト

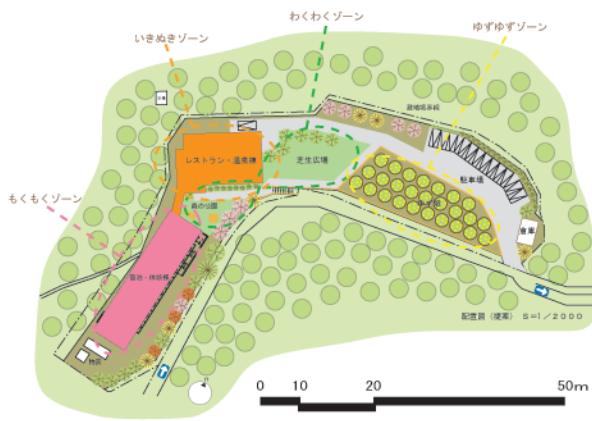
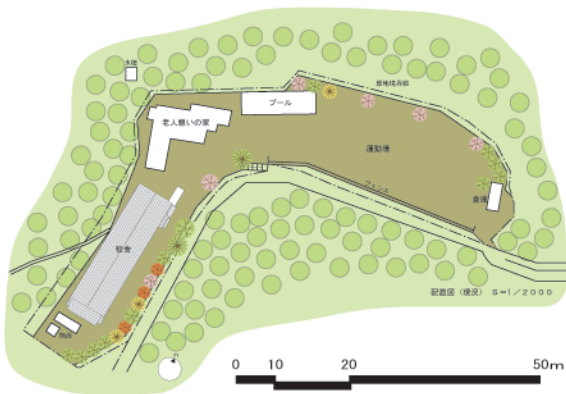
今回、計画地として選んだ大豊町の森林面積は約2万8千ヘクタールで、現在60%以上の山で間伐が必要とされています。しかし、高齢者が多く山村の過疎化も進み山の手入れをする人がいなくなってきています。そこで、森の中にある使われていない学校を活用して、森林ボランティアの活動をもとに、地域の活性化をめざす交流施設の提案を行います。一般の人や地域住民が訪れやすいように、食堂と温泉を設けています。

そして、木工教室では間伐材を使ってスプーンや椅子など様々な物を作りながら交流を深めることができます。その横に展示スペースを設け、森林ボランティアが行う木工教室で作った作品や活動を紹介します。森林ボランティアのことを知ってもらうきっかけになり、森林ボランティア人口の増加も期待できます。また、芝生広場・多目的ホールなどでイベントを開催して、地域住民、森林ボランティア、一般の人が交流することができます。

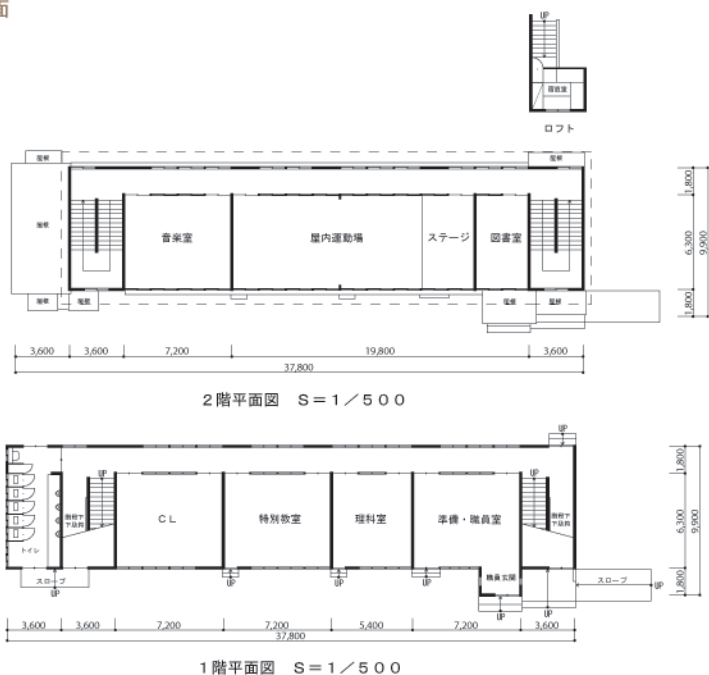
タイトルの『森人の舎』は、森と共に生きる人を『森人』と名づけ、かつて子供たちの学び舎だった場所が、ふたたび森人たちの学び舎となることから付けました。また、『舎』には、「いえ」や「休む場」などの意味があり、都会の喧騒から離れて、落ち着ける場所、自然の力に癒される場所として『森人の舎』は森の中に佇んでいます。



* 計画概要 *



* 既存図面



- **もくもくゾーン**
主に森林ボランティアが使う木工教室・多目的ホールを集めて配置
 - **いきぬきゾーン**
地域住民、一般の人、森林ボランティアが息抜きできるレストランと浴室などを配置
 - **わいわいゾーン**
芝生広場と森の公園によって構成される。芝生広場はイベント広場として用いる。森の公園では、間伐材でつくった遊具で遊べる。
 - **ゆずゆずゾーン**
ゆずの木を植えてゆず畑にする
- 校舎→宿泊・体験棟 主要構造体を残して増改築
 - 老人憩いの家を取り壊し→温泉・レストラン棟を新築
 - プールを取り壊し
バックヤードまでの動線の確保
 - 倉庫を取り壊し→間伐材を使って新築

* 提案図面



- 増築
- 改築
- 新築